

## クルーズオブザイヤー2023 表彰式

2023-12-25 池田良穂

去る12月22日、東京の海運会館においてクルーズ・オブ・ザ・イヤー2023の表彰式が行われました。選考委員長を務めさせていただいたので、表彰式で選考経緯の説明をさせていただくことになりました。15時からは優秀賞と特別賞の授与が行われ、16時半からの受賞パーティの冒頭に、国土交通省國場副大臣のご列席のもと、グランプリおよび国土交通大臣賞の授与が行われました。

この賞は、日本外航客船協会が設ける、優れたクルーズ商品およびクルーズ振興に貢献した個人や団体を顕彰するもので、応募の中からグランプリ、優秀賞、特別賞が授与されました。コロナ禍で中断していたので4年ぶりの再会でした。

パーティでの選考委員長としての選考経緯の説明をご披露し、さらに受賞風景を写真でご紹介します。

### 選考経緯の説明

選考委員会には、全選考委員が出席し、応募のあったすべての案件を慎重に審議をいたしました。

まず、グランプリの選考経緯について簡単にご説明します。各委員にグランプリに押したい応募商品を、その理由も述べて2~3件挙げてもらいました。その結果の上位は、MSC ベリッシマを使った3社のクルーズ商品と、邦船のクルーズ1件の計4件に絞られました。議論の中でMSC ベリッシマについては応募3商品と一緒に考えた方がよいのでは、という意見がでて、一括したクルーズ商品として扱うことにしました。その結果、外国籍船クルーズと邦船クルーズとの一騎打ちになりましたが、その後、諸般の事情で邦船のクルーズ企画は辞退ということになり、MSC ベリッシマのクルーズが今年のグランプリ・国土大臣賞に輝くことになりました。

同船はデビューはややはやの17万総トンの巨大船で、日本に8ヶ月間張り付いて、連続的にクルーズを実施し、10万人を超える人にクルーズを楽しませました。日本の2019年のクルーズ人口が約35万人でしたので、1隻でその1/3弱もの割合を占めたこととなります。MSC ジャパンが国内市場を精力的に開拓したことに加え、ジャパネットは、テレビ通販というクルーズ販売としては新しい手法で4万人を超える顧客をクルーズマーケットに引き入れてくれました。また、クルーズプラネットの企画したレゲエ音楽を中心に据えたテーマクルーズは、これまでの日本におけるテーマクルーズの中では大規模船での初めての成功例であり、今後、同様の企画がクルーズに新しい需要を生み出すものと期待がされます。

優れたクルーズ商品を対象とした優秀賞では、飛鳥Ⅱをつかった阪急交通社の商品は、クルーズだけにこだわらずに陸上の旅行と組み合わせ商品でマーケットの幅を広げたこと、そしてにっぽん丸を使った日立ポートサービスの商品は地域のマーケットを大きく拡大したことが高く評価されました。

特別賞では、個人として、選考委員でもある上田寿美子さんが選ばれました。北米西岸のクルーズマーケットが大きく成長した原因の1つにテレビドラマ「ラブボート」がありましたが、上田さんは人気テレビ番組「マツコの知らない世界」等で何度もクルーズの魅力を発信されました。

特別賞の港湾については、金沢港と清水港が選ばれました。長年のクルーズ誘致や、市民の活用にも目を向けたクルーズ受入施設の整備が評価されました。

最後に、特別賞に選ばれた日本国際クルーズ協議会は、ポストコロナにおける外国籍クルーズ客船の受入れ再開に向けて業界を挙げて設立され、国土交通省などとも連携して受入れガイドラインを作り、再開実現に多大な貢献をしたことが評価されました。



受賞者全員の記念写真



グランプリ・国土交通大臣賞<MSC ベリッシマによる日本クルーズ>

**クルーズ・オブ・ザ・イヤー 2023 授賞式**  
 主催：一般社団法人日本外航客船協会 後援：国土交通省／観光庁／一般社団法人日本外航客船協会



MSC クルーズジャパン 遠藤会長・國場副大臣・モレリ社長

**クルーズ・オブ・ザ・イヤー 2023 授賞式**  
 主催：一般社団法人日本外航客船協会 後援：国土交通省／観光庁／一般社団法人日本外航客船協会



クルーズプラネット小林社長

**クルーズ・オブ・ザ・イヤー 2023 授賞式**  
 主催：一般社団法人日本外航客船協会 後援：国土交通省／観光庁／一般社団法人日本外航客船協会



ジャパネットサービスイノベーション茨木社長



「MSC ベリッシマ」

優秀賞



阪急交通社<飛鳥Ⅱ>



日立ポートサービス<にっぽん丸>



「飛鳥Ⅱ」



「にっぽん丸」

特別賞



上田寿美子氏



静岡港



金沢港



日本国際クルーズ協議会



2023年12月8日

クルーズ記者会 各位

一般社団法人日本外航客船協会  
会長 遠藤 弘之



### 「クルーズ・オブ・ザ・イヤー 2023」の選考結果について

当協会は、11月15日（水）に「クルーズ・オブ・ザ・イヤー 2023」選考委員会を開催し、下記の通りグランプリ・国土交通大臣賞 1点、優秀賞 2点、特別賞 4点を決定しましたのでお知らせします。

本制度は、日本で販売されたクルーズ商品のうち、特にオリジナリティーにあふれ、かつ、わが国のクルーズマーケット拡大に貢献したもの等を表彰するものです。

2023年は、まさに「再開の年」です。コロナ禍以来3年振りに外航クルーズが再開され、数多くのクルーズ旅行商品等の応募・推薦がありました。

授賞式は、12月22日（金）に千代田区平河町の海運ビル3階で開催します。

記

#### ■グランプリ・国土交通大臣賞（3社合同受賞）

◀MSC ベリッシマ 日本周遊クルーズ▶

株式会社 MSC クルーズジャパン

株式会社ジャパネットサービスイノベーション

株式会社クルーズプラネット

[選考理由]

MSC クルーズは最新鋭のメガシップ「MSC ベリッシマ」を約8カ月間にわたり日本に配船。日本周遊クルーズの乗客数はチャータークルーズと合わせ10万人を超えた。新しい販売チャンネルの構築や、Netflix 映画『クレイジークルーズ』の制作への特別協力による若年層への取り組みなど、新しいマーケットを切り開いた点が高く評価された。

ジャパネットサービスイノベーションは同船を13航海にわたり全船チャーターし、4万人以上を集客。テレビショッピングという新しい販売チャンネルを、2018年の優秀賞受賞以来継続的に進化させ、潜在需要の掘り起こしに寄与した。また、同グループ会社のBS放送局で、多くの著名人が乗船する様子や初心者向け乗船ガイドをテレビ放映することにより、クルーズ未経験の層に大きなインパクトを与えたことも評価された。

クルーズプラネットは音楽グループ Mighty Crown との協業により、レゲエをテーマにした「FAR EAST REGGAE CRUISE」を実施。これまでにない企画とともに、20～50歳代という新たな客層へのアプローチに成功した点が高く評価された。

**■優秀賞** <憧れの豪華客船 飛鳥Ⅱに2泊する船旅と名湯と美食旅>  
株式会社阪急交通社

[選考理由]

飛鳥Ⅱのクルーズ2泊と寄港先の宿泊・観光をセットにし、さらに添乗員同行としたパック旅行商品。クルーズが初めての方でも安心して参加できるようハードルを下げたことが奏功し、東京を中心に約2,000人、全国で約4,800人が参加。うち約70パーセントがクルーズ初乗船であり、新規顧客の開拓に成功した点が評価された。「飛鳥Ⅱに2泊(もする)」ことをうたったキャッチコピーは、飛鳥Ⅱに対する消費者の憧れを的確にとらえたと言える。

**■優秀賞** <につぼん丸 大洗発チャータークルーズ>  
日立ポートサービス(日立埠頭株式会社)

[選考理由]

茨城県日立市を拠点とする同社では地元・大洗港区発着のクルーズを多数、企画実施している。茨城県はもとより、近隣の千葉県・栃木県・群馬県・福島県・宮城県など東日本地域のクルーズ需要の拡大・掘り起こしに貢献したことが評価された。車社会という地域特性を考慮し、埠頭に無料駐車場を完備、北関東・南東北各地から大洗港区までの往復送迎バス運行などにより、参加へのハードルを下げること成功した。船内では地元・大洗町の特産品を提供するなど地元活性化にも貢献。一度参加した乗客が友人を連れてリピートするなど、地元のマーケット拡大に好循環が生まれている。

**■特別賞** クルーズライター 上田 寿美子 殿

[選考理由]

クルーズ乗船歴50年、クルーズライターのパイオニアとして長年にわたり朝日新聞デジタルや雑誌クルーズトラベラーなどさまざまなメディアや各地での講演会を通じて、クルーズ旅行の楽しさを発信。今年1月にはテレビ番組『マツコの知らない世界』に2週連続で出演。大きな反響を受け、クルーズ各社の売上増にもつながった。外国籍クルーズ船の受入再開直前のタイミングでもあり、キックオフとして業界全体を活気づけた功績が評価された。

※上田氏は本件選考委員のため、特別賞の選考時には離席いただいた。

**■特別賞** 金沢港クルーズターミナル

[選考理由]

金沢港開港50周年を機に建設された金沢港クルーズターミナルは、2020年6月開館。全国でクルーズターミナルの建設が課題となるなか、近年、船社資本により建設されるターミナルがある一方で、今回、公共的で汎用的な多目的ホールとすることで、クルーズが来ない時期にも県民に活用される施設となる一例を示せたことで、全国にクルーズターミナルを建設するハードルを下げることであったことが評価された。同ターミナルは、当初から客船寄港時以外の市民の活用を念頭に設計し、館内には金沢港の歴史や港の仕事を学べる施設や操船シミュレーター(一般向けでは国内最大級)を設置。また、寄港のない日には貸館として民間に開放し、自動車の展示会や物販、旅行イベントのほか、ヨガ教室、結婚式、保育園の運動会などにも利用され、2023年7月に来場者200万人を達成するなど港のにぎわいの拠点となった。今年は日本海側トップクラスの寄港数(47回)となり、発着型や停泊型クルーズの利用も進む。

■特別賞 <清水港>

静岡県 交通基盤部港湾局

[選考理由]

コロナ禍により中断していた外国籍クルーズ船による日本寄港の再開第1弾として、2023年3月1日に「アマデア」(フェニックス・ライゼン)を受け入れた。安全・安心を最優先に日本船の受入実績を重ねながら、外国船社との継続的な関係の維持に努めたことにより、受入再開を成功させた。富士山を背景に入港するアマデアの姿は多くのメディアで報じられ、クルーズ再開の認知度向上にも貢献した。今年の寄港回数は過去最多の57回を見込む。

■特別賞 <国際クルーズの再開を目指して>

日本国際クルーズ協議会

[選考理由]

コロナ禍により停止した外国籍クルーズ船の日本寄港・発着の再開に向け、関係各所との調整・交渉を行うなど尽力したことが評価された。同協議会は外国船社の日本支社・日本法人等、販売旅行会社、船舶代理店、ランドオペレーター等により、コロナ禍の中の2021年4月に設立。2022年11月に外国籍船の感染予防ガイドラインを策定。2023年3月からの外国籍船の日本寄港再開に貢献した。今後も外国籍クルーズ船に関わる業界団体として活躍が期待される。

◆本件に関する問い合わせ：(一社)日本外航客船協会 松本 (TEL：03-5275-3710)

以 上